令和元年度 豊かなむらづくり全国表彰事業
東北ブロック受賞事例の概要

【東北農政局長賞】

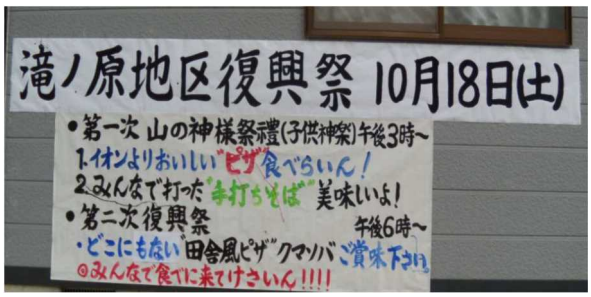
米粉パンがつなぐ、暮らして楽しいむらづくり

受賞団体：滝ノ原自治会（宮城県栗原市）

◆むらづくりの背景・経緯

栗原市は、宮城県の内陸北部にあり、宮城・岩手・秋田県にまたがる栗駒山の南麓に位置している。

滝ノ原地区は、高齢化によりコミュニティ活動が停滞していたが、平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震による被災が地域コミュニティの重要性を再認識するきっかけとなり、地震の約４ヶ月後に開催した「復興祭」で継続的な交流を望む声が高まりむらづくりへの取り組みが開始された。



◆むらづくりの内容

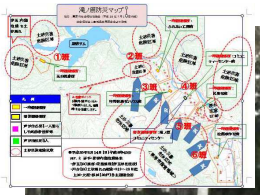
○農業生産面

地元農家が新規需要米として栽培している年間２トンの米（ひとめぼれ）を米粉パン、米粉ピザ及び米粉めん（うどん）の原材料として使用している。

○生活・環境整備面

「栗駒の里パン工房“おふくろさん”」で、地元産の米を使った米粉パンや米粉めんを製造・販売し「小さな６次産業化」を行っている。

「岩手・宮城内陸地震」の被災経験を機に地域の防災力を高めようと防災マップを作成した他、高齢化に伴い行ってこなかった防災訓練を実施した。

防災訓練と秋の収穫祭を兼ねた「地区民祭」は、若い世代が運営に参加し子どもから高齢者まで楽しめるイベントとする仕掛けづくりを工夫しながら、毎年の恒例行事として定着している。

自治会を中心として各組織の連携による一体的な取り組みを指向しており、米粉製品を活用した夏祭り、秋祭り、地元産の餅米を使った餅つきや伝統のしめ縄づくりといった諸行事や防災訓練、高齢者を対象とする「お茶っこ会」等を定期的に開催し、高齢者が楽しく暮らし、子供たちが愛着を持つことのできる地域づくり活動を展開している。